

地下水

版

KAWARABAN

版

2019年
社員研修旅行



第2班 ベトナム 4.15～19



第3班 那覇・奄美大島クルーズ 4.22～26



第4班 マレーシア 5.14～19



第1班 屋久島・徳之島・沖縄クルーズ 4.7～11



第5班 トルコ 5.20～25

平成31年度は5班に分かれての研修旅行となりました。地域における、様々な体験をすることで五感に大きな刺激を受けました。来年も研修旅行に行けるよう各自が努力を続けましょう。

平成31年度入社式

4月1日(月)に「平成31年度入社式」が行われ、5名の新入社員を迎えました。

桂木社長から、社会人としての責任、職業人としての自覚を十分理解しながら、新しい人生をスタートするとともに、安全はすべてに優先することを胸に刻むようにとのお言葉がありました。

新元号、新しい時代の新たな成長エンジンとして大いなるパワーを発揮してくれることを期待しています。



2019年社員研修旅行

4～5月に、5班に分かれて研修旅行が行われました。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1班：屋久島・徳之島・沖縄クルーズ | 4月7日(日)～4月11日(木) |
| 2班：ベトナム(ダナン) | 4月15日(月)～4月19日(金) |
| 3班：那覇・奄美大島クルーズ | 4月22日(月)～4月26日(金) |
| 4班：マレーシア(ランカウイ・クアラルンプール) | 5月14日(火)～5月19日(日) |
| 5班：トルコ(イスタンブール・カッパドキア) | 5月20日(月)～5月25日(土) |

国内外、初めての体験に多くの刺激を受けました。来年も研修旅行に行けるように、日々研鑽に努めましょう。

環会から山形県社会福祉協議会へ モンテディオ山形ホームチケット贈呈

3月25日(月)、環会から山形県社会福祉協議会へ、5月5日(日)に開催されたJ2・モンテディオ山形対ファジアーノ岡山戦の観戦チケット300枚が贈呈されました。

環会では、平成10年から22年間にわたりモンテディオ山形のホームゲームチケットを贈呈しており、今年で累計枚数は12,600枚になりました。



県社会福祉協議会にサッカーJ2・モンテディオ山形のホーム戦チケット300枚を贈呈した。同協議会を通じて、県内約100カ所の児童福祉施設や特別支援学校などに届けられる。山形市の県総合社会福祉センターで贈呈式が行われ、桂木社長が同協議会の産務部長に目録を手渡し、これまでお礼の言葉を述べた。今年も有効に活用してほしいと語った。5月5日に天童市のDソフトスタジアム山形で行われる岡山戦が対象試合。産務部長が、日にもチームの調子が良い、日にも良くと感謝の言葉を述べた。贈呈は1008年から毎年続けており、今回を含めて累計1万2600枚を届けた。(相原健佑)

山形新聞 平成31年3月26日

CONTENTS

- 表紙……………1
- JGD NEWS……………2
- ここでごんばっています。…12
- 太陽光発電状況…12

ビジネス文書作成研修に参加して

事業本部工事事務 佐藤 浩之

三月十六日から三回にわたって開催された、ビジネス文書作成研修会に参加させて頂きましたのでご報告致します。

この研修会は、関連会社を含めた中堅社員十六名を対象とした研修で、使用する機会が増えた電子メールでの文書作成マナーの習得と、相手に失礼のないビジネス文書の作成について改めてその基本を学ぶ事が目的でした。講師は、東北バイオニアで品質保証部や経営品質推進室を歴任され、現在は『やまがた経営品質研究会』として企業の経営品質支援をされている松田清さんに務めて頂きました。松田さんには、先に行われた工事事務の中堅社員十六名を対象とした研修会の講師もお願いしており、その中では、企業の持つ四つの視点（財務の視点・顧客の視点・業績プロセスの視点・成長学習の視点）がどのように企業の業績やビジョンに影響を与えているかを可視化・管理するための手法であるバランススコアカード（以下BSC）の作成手法や、作成したBSCに基づいた具体的なアクションプランの作成や、その実行計画の策定方法につ

いての研修も行って頂きました。この研修会は全五行われ、実際に罫のを用いた企業の取り組み事例であったり、マッシュマロチャレンジと呼ばれるバスタの乾麺とテープ・ひもを使い、頂点にマッシュマロを刺した状態で自立可能なタワーの高さを競い合うゲームを行ったりと、とてもユニークな研修内容でありました。また、日本航空のフィロソフィより抜粋した「渦の中心になれ」という言葉を用い、何事も他人任せにしないで自分が渦の中心となって物事を実現すれば、必ず共感し皆を巻き込めるといった意識改革の必要性や具体的な行動目標についても学ぶ事が出来ました。

今回のビジネス文章作成の研修では、先の工事事務での研修で学んだ「渦の中心になれ」というリーダーに求められる意識改革の必要性から始まり、文章を作成する前段として人間力やコミュニケーション能力の向上を図ることで、相手の視点に立ったメールや文章作成が可能となることを学んだ他、日本経営品質賞を受賞した企業の紹介映像を見た後に感想を含めたグループ

ディスカッションを行い、特徴的な点についてまとめ発表を行ったり、一年後〜近未来の自分の存在価値を高めるために、自分の価値観とビジョン実現に向けて、自分がどの様な考え方と行動を行うのかを項目ごとにまとめる「ミッション・ステートメント」の作成を行いました。

ネス文書の作成能力を含めた人間力向上を目指して今後の業務に邁進して参ります。



平成三十年度 第四回「地下熱利用とヒートポンプシステム研究会」 （兼第十六回研究発表会 IEA ECES Annex27 ワークショップ）参加報告

営業本部企画開発部 井上 純

平成三十一年四月九日、堂島リバーフォーラム（所在地：大阪市福島区福島一-1-17）において、「地下熱利用とヒートポンプシステム研究会」と「IEA ECES Annex27 ワークショップ」の合同研究会が開催され、沼澤喜一取締役と共に参加して参りましたのでご報告致します。

この研究会そのものは一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターが主催する研究会であり、例年であれば二月末～三月中旬に開催されていましたが、今回は四月にIEA蓄熱実施協定Annex27の会議が大阪で開催されることに伴い、合同で開催されることとなりました。Annex27との合同開催となったため、出席者の中には外国人が少なからず入ることになり、そのため研究会は英語で行われました。

出席者は五〇名程度で、その内十五人程度が外国人でした。最初に研究会の主旨を務める北海道大学の長野教授の挨拶があり、それに続いて日本人の発表が七件、私は六番目に発表を行いました。

私は地中熱利用冷暖房システム設置にお

ける採熱孔掘削に関して「Outline of Well

Drilling Method in Heating and Cooling

Systems Utilizing Ground Source and

Ground Water」（地中熱および地下水熱利

用冷暖房システム設置におけるボアホール

掘削方法の概要」というタイトルで発表を

行いました。内容は、ソニックドリルによ

るボアホール掘削について、その特徴や優

位性に関するものです。皆さんご存じのよ

うに、ソニックドリルは他の手法と比較し

て掘削時間が大幅に短いことおよび作業

ヤードがコンパクトであること、パーカッ

ション方式と比較した場合に低騒音である

こと、等の優位性があり、これらは市街地

や住宅街におけるボアホール掘削に対して

有利に働くこと、工期が短縮されることが

そのままコストダウンにつながることを

説明しました。

発表用のパワーポイントには、写真や図

面をできるだけ多くするようにしました。

特に、他の工法と比較して掘削に要する時

間を大幅に短縮できることがソニックドリ

ルの最大の強みであるわけですが、ロータ

リー方式やパーカッション方式など他の工法と掘削時間を比較したデータは当社にはなかったため、東亜利根ボーリングの上野さんにデータを頂き、棒グラフにして比較した図面を提示して説明しました。

私その他には、鹿島、佐賀大学、北海道大学、(二件)、森川さく泉、アリガプランニングの方々が発表を行った他、特別講演として大阪市立大学の中曾先生より大阪駅北口一帯における(所謂うめきたプロジェクト)帯水層蓄熱方式冷暖房システムについての講演があり、コーヒーブレイクを挟んで外国人による発表が五件ありました。

二番目のスピーカーであるDr. Signhild Gehin という名前に聞き覚えがありました。当社で熱応答試験を実施しようとした際、勉強として読んだ論文の著者であったスウェーデンのルンド大学の研究者の方でした。論文の名前だけでは女性か男性かの区別がつかないので、男性と思い込んでいましたが実際は女性だったことに驚きました(しかも結構な美

人でした)。

英語が主体の学会や講演会に参加した際にいつも思うことですが、英語を勉強しなければならぬということです。NHKのBS1で放送されているABCニュース英語を録画しては繰り返し見っていますが、引き続き努力を続けます。





国土交通省正面にて

程度になるのでは」と伺っていたのですが、話し始めてみると国土交通省側のメンバーが地中熱に関する知見を持ち合わせていないことがわかり、即席で藤井先生と小生による地中熱利用に関する説明を行うこととなりました。小生のパソコンの中にはこれまで様々な賀所で行ってきたプレゼンデータが蓄積されていたことから、初心者向けのデータを取り出して藤井先生が基本的な部分について説明し、その後、先方より建物に導入した事例を紹介して欲しいとの依頼があったので、JGD本社に導入しているATES冷暖房システムについて小生が説明を行いました。

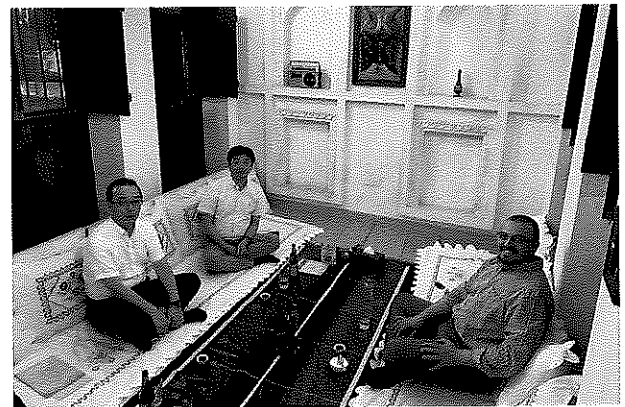


国土交通省におけるミーティング

UAE国内にはまだ地中熱HPシステムが導入されている場所はないとのことですが、湾岸諸国の中では再エネ利用に積極的な国とのことで、地中熱も再エネ利用の一つとして注目しているようでした。UAEでは1月の最低気温は14℃まで下がるが、7月8月は40℃を超える日がざらで、体感温度は60℃近くまであがるので、冷房のために地中熱を使えないか検討を始めたところのこと（暖房需要はないと考えていいようです）。

ミーティングの最後にSalaheddineさんより、国土交通省としては地中熱利用を行うためのモデル地域の選定を進めており、今後実際に導入を行うことが決まれば、秋田大学とJGDに協力をお願いすることを検討したいとの言葉があり、その日の午後には英国人コンサルタントより、是非今後とも一緒に仕事がしたいとの連絡が入りましたが、UAE国内において海外の企業が事業を行う場合は、UAEに事務所を構えなければならないというハードルがあるようです。

JGDとしては、UAEにおいて何ができるのかをしっかりと見極めた上で今後の対応を考えていきたいと考えています。



UAE大学のHakim先生と記念撮影

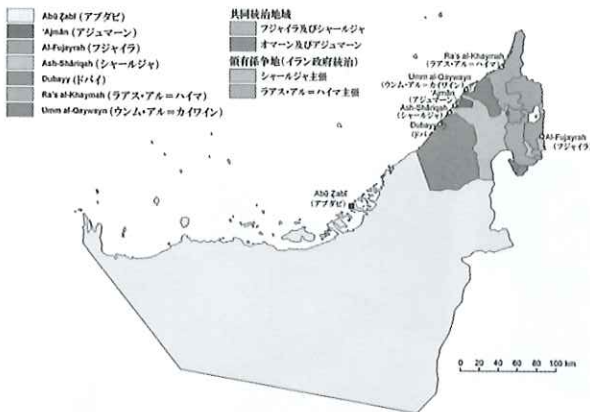


UAE出張報告

専務取締役 桂木 聖彦

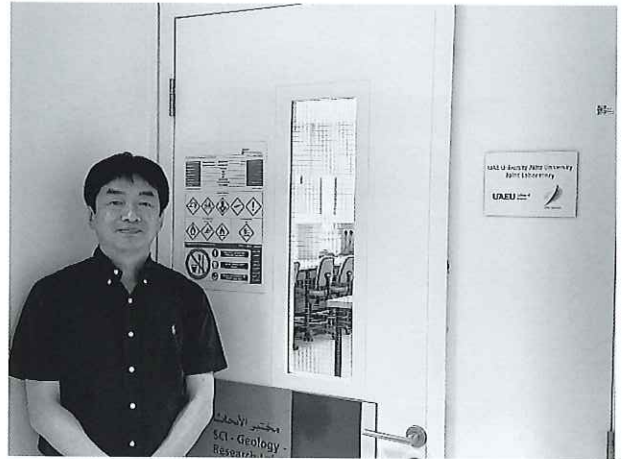
4月29日～5月4日の6日間、秋田大学大学院国際資源学研究科長兼国際資源学部長の藤井光教授に同行し、アラブ首長国連邦のUAE大学を訪問した他、UAE国土交通省において地中熱ヒートポンプシステムに関するプレゼンをしてまいりましたので、内容について報告します。

アラブ首長国連邦、略称UAE（英: United Arab Emirates）は、西アジア・中東の国。アラビア半島のペルシア湾（アラビア語圏ではアラビア湾と呼ぶ）に面した地域に位置する7つの首長国からなる連邦国家であり、首都はアブダビ。東部ではオマーンと、南部および西部ではサウジアラビアと隣接しています。



アラブ首長国連邦の各首長国

UAE大学は、1976年に連邦を構成する7首長国の一つであるアブダビ首長国の東端に位置する都市アル・アインに設立された同国最初の国立大学で、教育・研究水準及び規模ともに同国屈指の総合大学であり、秋田大学では、昨年11月に同大学との大学間学術共同協定を締結しました。現在はUAE大学内に秋田大学の共同研究室が設置されており、資源開発に関する地質・地球物理学分野における共同研究や、研究者が学生の交流を行っています。



UAE大学と秋田大学の共同研究室入口

日本が平成から令和にかわった5月1日は、UAE大学理学部長のAhmed教授にご挨拶した後、理学部の様々な施設を案内していただきました。UAE大学は男女共学なのですが、学部までは男女は別々に授業を受けるとのことで、学内も男子学生のエリアと女子学生のエリアに分かれており、女子学生は皆アバヤ（アラビア半島の伝統的な民族衣装：黒い布で顔と手足の先以外をすべて隠すものです）を着用しており、イスラムの世界にいることを実感させてくれました。

UAE大学理学部には、九州大学で13年間勉強されたHakim先生が准教授として教鞭をとっており、九州大学でも指導されていた藤井先生と親交があったことから、秋田大学とUAE大学との共同協定が結ばれることとなりました。

Hakim先生は、藤井先生にUAE国内における地中熱事業の可能性について質問されており、UAE国土交通省に地中熱の話をしたところ、国土交通省側が地中熱に興味を持ったことから、今回のプレゼンにつながりました。

5月2日、ドバイにある国土交通省を訪問。プロジェクトマネージャーのSalaheddineさん（女性）の他、イギリス人コンサルタントと現地コンサルタント同席での打ち合わせが行われました。

Hakim先生からは、「今日は最初なので顔合わせ

ZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) を視察して

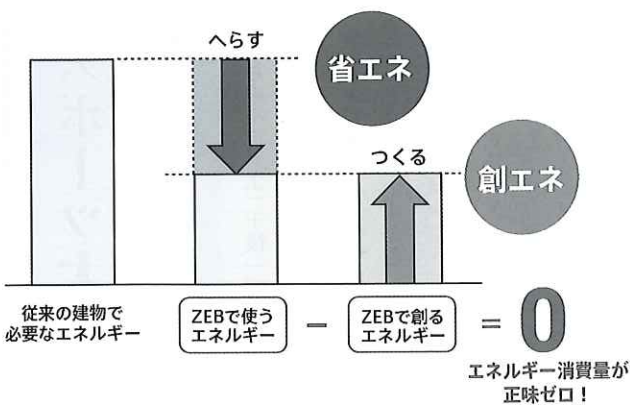
技術本部設計部 鈴木和則

五月九日に桂木専務、[E]の角張専務、企画開発部山谷担当部長に同行し札幌市内のZEB施設、(株)アリガプランニング社屋ビルを視察して参りましたので報告致します。

まず初めにZEB (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) について説明します。ZEBとは快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにする

ことを目指した建物のことです。(株)アリガプランニングは、(株)有我工業所のグループ会社で、業務内容はさく井工、地中熱利用システム関連工事を手掛けています。

施設の案内は、奥村札幌本店長と環境エネルギーグループの小野寺さんが担当し、分かり易く説明していただきました。



省エネによって使うエネルギーを減らし、創エネによって使う分のエネルギーを創ることでエネルギー消費量を正味(ネット)ゼロにすることができます。[環境省ホームページ] 参照

建物の竣工は平成三十年三月、地上四階、延床面積六四三・九㎡で、北海道で最初の「ZEB」となると共に「建築物省エネルギー性能表示制度(BEES)」にて最高ランクの星五つに認定されています。正面玄関にはその認定シールが表示されておりました。

省エネ技術として外壁や屋根に十分な断熱を施し、熱ロスが発生しやすい窓部にはLow-E複層ガラス(真空トリプルガラス)を使用して熱の出入りを遮断しています。

冷暖房設備は、ヒートポンプを用いて、熱源は地中熱と地下水熱を使い分けています。初夏の気温があまり高

くない場合は、地下水を熱交換しファンコイルから室内に冷風を供給するフリークーリングで省エネを図っています。但し十五℃程度の地下水との熱交換であるため、室内での冷風吹き出し温度は二十℃弱程度で盛夏には冷房効果が不十分となります。そのため盛夏時期は地中熱ヒートポンプシステムに切り替えるそうです。地中熱ヒートポンプシステムによる冷房期間は七月、八月の二か月間とのこと。

また機械室内には発電した電気を蓄える蓄電池を備えており動力系と電灯系の二系統の蓄電池で約三日間の電気を賄うことができそうです。

実情としては蓄電した電気を使い切ることはなく、余った電力は北海道電力に逆送してしまうとのことでした。蓄電池自体もコストが二十万円程度とまだまだ普及には時間がかかると感じます。

〈地中熱熱交換井〉

一〇〇m×六本(Uチューブ二五A)

〈水源〉

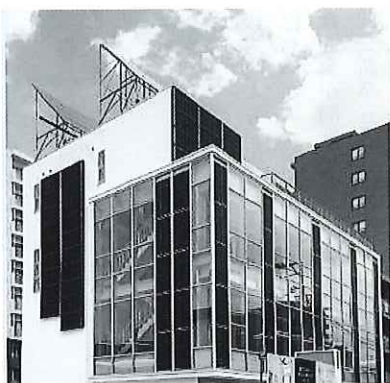
揚水井：一〇〇A×五〇m×一本

還元井：一五〇A×五〇m×二本

その他、全熱交換器システムやLED照明を用いて省エネ化を図っています。屋

上や外壁壁面には太陽光発電用パネル(合計出力：五五・八八kW)

が設置され年間想定発電量は三六七・三六Gに達し



社屋全景



視察状況

最後に(株)有我工業所の奥村札幌本店長様、伊藤営業本部長様、(株)アリガプランニングの小野寺様には心より感謝申し上げます。

スポーツ大会

親睦会 幹事 志 鎌 秀 紀

五月十一日(土)午後一時より、山形ファミリアボウルにおいて令和元年度(JGD)グループスポーツ大会が開催されました。

今回はボウリングをアレンジしたりレボウリングを行いました。チームは昨年同様干支の組み合わせをベースに四チームに分かれての団体戦です。通常のボウリングと違い、四人分のゲームを五名で一投ずつ順番に投球します。残ったピンを次の人がいかにフォローしスベアを取れるかがポイントで、投球順がゲームを左右します。

始球式は、新入社員を代表して事業本部工事部の鈴木陸さんが行い、狙ったかのように一ピンのみを倒し会場を盛り上げました。競技中は各レーンからストライクや、むずかしいスベアのフラインプレーに歓声があがりました。また、なれないボウリングでうまく投球できずガターが多発する方もいらっしやいましたが、まさに一喜一憂のプレーで会場が盛り上がり、終始笑顔が絶えませんでした。

成績は、優勝チームA(鈴木英生主将)一一〇点、準優勝チームD(佐藤裕太郎主将)一〇〇点、三位チームB(佐藤力主将)一〇七点、四位チームC(工藤智弥主将)一〇三五点となり、ハッスル賞には、鈴木陸さん、土屋建人さん、齋藤伯瑛さん、佐藤彬人さんが選ばれました。

珍プレー賞は伊藤健人さん。MVP賞には桂木社長率いるAーグループ(最高スコア一七五点)が選ばれました。なかでも、

チームAの鈴木陸さんはすばらしい活躍で、チーム優勝、ハッスル賞、MVP賞の三賞を受賞しました。

前回スポーツ大会でボウリングを行ったのは十三年前でしたので、十三年ぶりにボウリングをした方や、マイボール、マイシューズで気合い十分の強者まで、年齢や経験を関係なく活躍し、楽しめたスポーツ大会になりました。スポーツ大会で普段交流の少ない人たちとの親睦が深まり、より良いチームワークが業務に活かされる事を願っております。

各チームの主将をはじめ、ご参加いただきました会員の皆様には、ご協力を賜り、親睦会より深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



新入会員歓迎会

事業本部資源環境部 大 沼 隆

五月十一日(土)午後六時より、山形市のパレスグランデールにおいて、JGDグループ親睦会・新入会員歓迎会が開催され、今年新しく七名の仲間(新卒五名、新入会員二名)を迎える事ができました。

山谷親睦会会長からの開会挨拶の後、スポーツ大会の結果発表と表彰式を行いました。続いて、親睦会顧問の桂木社長から乾杯のご発声を頂戴し、和やかに宴会が始まりました。

今年の新社員の余興は『バンスト相撲トーナメント』と、トーナメントの順位に応じた『お題と決意表明』でした。入社式の翌日から互いにアイデアを出し合い、考え抜いた末の斬新な余興は、積み重ねた練習の成果もあり、会場が驚きと笑いに包まれました。

また、桂木社長の計らいにより、恒例となりつつある教育係や先輩社員が続々と登壇し、先輩達の見事な掛け合いに、会場はより一層盛り上がりました。

終始、笑顔の絶えない歓迎会となり、社員全員が仲間として繋がっている温かさを感じる事ができた新入社員歓迎会となりました。

(スポーツ大会を含め、この一日を盛り上げて下さいました会員の皆様には親睦会より深く感謝申し上げます。)



アメリカ合衆国出張報告

事業本部工事事務 佐藤 力

令和元年五月十九日から二十六日までの八日間、アメリカ合衆国へ出張し、桂木社長、設計部福井次長と同行して、アメリカ合衆国内各地を視察して参りました。その視察内容について報告致します。

今回の出張における一番の目的は、ユタ州ソルトレイクシティで開催された「2019 APWA North American Snow Conference」の展示会視察でした。

この展示会に出展されている展示物は、大きく分けると「除雪機械関係」と「運用システム関係」、そして「凍結防止剤関係」となり、総出展者数は一七二社でありました。ただし、展示されている除雪機械がかなり大きいため、印象としては除雪機械展示会の様な感じになっておりました。

しかし、その様な中でも、当社で販売している「トケボウ」に関する各種凍結防止剤についても多数出展されており、興味深く見学することができました。

現在トケボウに使用されている凍結防止剤は、多くが塩化物系の溶液です。一部酢酸系の溶液を使用している施設もあります

が、塩化物系溶液は値段の安さ、使用量の多さを背景とした入手時の利便性などに優れており、多くの施設で利用されております。その反面、周辺環境への負荷や、インフラ施設への塩害等が問題視されている側面もあります。

アメリカではどのような溶液が使用されているのか出展者に尋ねてみると、そのほとんどが塩化物系の溶液で、その溶液にてんさい（砂糖大根）などの添加物を加えて、性能の向上や他社との差別化を図っているとの事でした。酢酸系溶液はアメリカでも

高価だという事で、ほとんど使用されていないのが現状でした。

後日アメリカの道路を実際に走行してみても違えば大変な金額の違いになると実感致しました。

また別のブースでは、凍結防止剤を様々な色に変化させる着色剤が展示されておりました。この商品は、担当者によると環境への負荷がほとんどないとの事。トケボウへの溶液散布後に、現状では路面の濡れ状態でしか確認出来ませんが、このような商品を使えば、視認性の向上に繋がるのではないかと感じました。また、冬季の月山道路で雪の壁に塗布されている赤や青のスプレーの代わりに使用すると、環境への負荷軽減になるのではないかと考えて

しました。

展示会終了後には、二〇〇二年ソルトレイクシティオリンピックが開催された会場も視察致しました。当日は我々を歓迎するかの様な雪に見舞われ、改めてアメリカ大陸の奥深さを感じました。またサンフランシスコ市内視察では、街中の坂道の多さを体感し、なぜこの街でケーブルカーが発展したのかを改めて感じました。また、ゴールデンゲートブリッジにも訪れるなど様々な経験をjして、見聞を広めさせて頂きました。

最後になりますが、今回このような機会を頂き、たくさんの貴重な体験をさせて頂きました。今回の経験を活かして、今後も仕事に取り組んで参ります。ありがとうございました。



塩化物系凍結防止剤



埋込式散布ノズル



大型除雪機械



回転式タイヤチェーン (格納時)

第五十六回日本伝熱シンポジウムに参加して

技術本部設計部 山口正敏

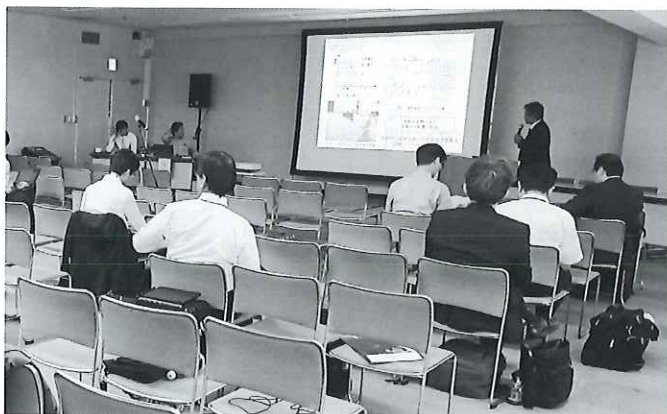
令和元年六月十三日(木)

山形新聞やましんサロン

令和元年六月十三日(木)発行の山形新聞やましんサロンに、押野常務の投稿が掲載されました。「〇〇社員が忘れてはならない原点を思い起こさせる内容ですので、是非ご一読ください。」

令和元年五月二十九日(水)〜同三十一日(金)、(公社)日本伝熱学会が主催する標記シンポジウムが、徳島県徳島市のあわぎんホール 徳島県郷土文化会館で開催され、堀野常務とともに参加して参りました。この伝熱シンポジウムは、伝熱を専門にする研究者を中心に、機械系メーカー、計測器メーカーなどの参加者が多く、発表後の質疑応答では活発な議論がなされます。口頭発表は、一件当たり十五分の持ち時間の内、十分を発表、残り五分を質疑応答に割り当てられます。ここまでは、他の様々な学会での発表形式と同じですが、このシンポジウムでは、各セッションでの発表が終わった後に、発表者全員が前席に集合し、発表人数×五分の間、フリーに質疑応答の時間を割り当てられます。場合によっては、会場からの質問攻めに合い、発表後の五分だけでなく、後半(概ね合計二十五分)の半分近くを質疑応答に割られる場合もありセッションが終了するまでは緊張の連続です。

今回は、約三年振りの口頭発表で、「過採熱による地中熱交換孔内の凍結」と題し発表を行いました。これは、西部工場実験施設内に設けられている地中熱交換井において、過剰な採熱を行った実験結果あり、福井大学や山梨大学の先生よりコメント等を頂くことが出来ました。気になっていたセッション後の質疑応答では、残念ながら下名に質問が集中することはありませんでした。



山口発表の様子 (この後、徐々に会場が埋まってきました…)

した。
学会での発表と聞くと、ハードルが高い印象ですが、発表内容を取りまとめる、予稿集を作成するなどの作業は、お客さんに説明する内容を自分なりに取りまとめる、わかりやすく伝えるといった点から見れば相通じるものがあるはず。そういった観点からも、特に若い方々には、臆することなく、積極的にこういった機会をチャレンジすることを期待したいと思っております。

新時代、見ていきたい

山形市 押野正章 64歳

またこの時期がやってくる。私が勤務する会社の会長の命日が間もなくなのだ。今年が例年以上に感慨深いものを感じている。というのも私自身の定年が、同じ命日に迫っているからだ。

大学を卒業し何も分からないまま入社した若者は疑問を抱きながら、とにかく毎日のように会長から怒られたのを覚えている。連日行われる朝礼は、会長の話で30分を超えることもしばしば。で、目を起して倒れる女子社員もいたほどである。

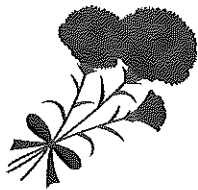
会長の朝礼時での話はパターン化しており、またあの話かと思うのだが、何げないうちに頭に入っていたのは、結果的に会長の術中にまんまとはまっていたのだらう。あの当時毎日怒られて

いた若造も還暦をどうに過ぎ、少しは会長の気持ちに近づいたように感じている。わが社には朝礼時に毎日全員で唱和する。会長が愛した社是がある。

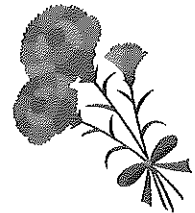
「自然は常になれわれに偉大な力と無限の試練を与えてくれる。自然の征服は不可能であるが自然の利用は無制限である。自然を愛し自然と語ろう。それは自己を愛し会社を愛することである。」

若い頃から自然との共生をうたい、遠い地へと旅立った会長。自分自身も何年生きられるのか分からないが、少なくとも会長の生きた年齢までは、そして定年を迎え令和へと変わった新しい時代を、これから少しでも長く見ていければと願っている。

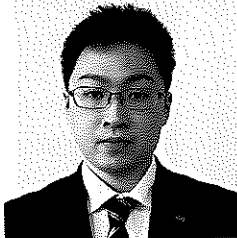




2019 New-Face

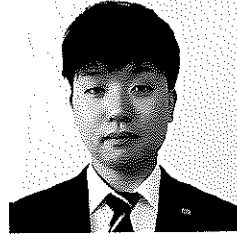


～ 日本地下水開発グループ親睦会 新入会員のご紹介 ～



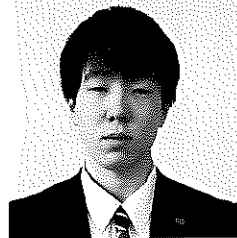
たかはし けんた
高橋 健太

- A. 出身地
山形県最上郡真室川町
- B. 最終学歴・専攻
秋田大学 国際資源学部 国際資源学科
- C. 配属
事業本部 資源環境部
- D. 趣味
サイクリング
- E. 年齢・生年月日
23歳 平成8年5月2日
- F. 社会人になっての抱負
今まで勉強してきた経験を活かして、行動・仕事ができる社会人になりたいです。至らない点が多々あるかと思いますが、ご指導の程宜しくお願いします。



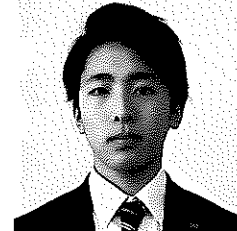
あべ えいと
阿部 瑛斗

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 最終学歴・専攻
日本大学 工学部 生命応用化学科
- C. 配属
日本環境科学株式会社 事業部 分析グループ
- D. 趣味
サイクリング、ヒルクライム、楽器
- E. 年齢・生年月日
22歳 平成8年8月22日
- F. 社会人になっての抱負
社会人として、また日本地下水開発グループの一員としての自覚と、責任ある行動ができるように励みます。はじめはわからないことばかりですが、少しずつ皆様のお役に立てるよう仕事に馴染み、頑張っていく予定です。よろしくお願いします。



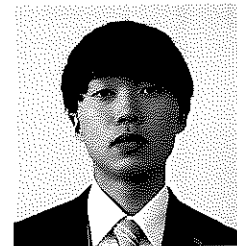
ながさわ けいた
長澤 慧太

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 最終学歴・専攻
山形県立産業技術短期大学校 土木エンジニアリング科
- C. 配属
事業本部 工事部
- D. 趣味
読書、音楽鑑賞
- E. 年齢・生年月日
20歳 平成10年11月5日
- F. 社会人になっての抱負
社会人になり、不安なことが多々ありますが、その不安に負けないように一生懸命仕事に取り組み、会社に役立てるよう日々努力していきます。上司や先輩方から多くのことを学び自分のものにしていきたいです。



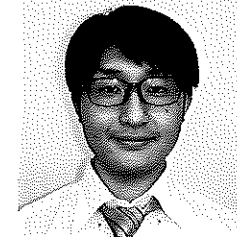
すずき りく
鈴木 陸

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 最終学歴・専攻
山形県立山形工業高等学校 環境システム科
- C. 配属
事業本部 工事部
- D. 趣味
野球、音楽を聴くこと・歌うこと
- E. 年齢・生年月日
18歳 平成13年3月22日
- F. 社会人になっての抱負
まだ社会人になったばかりでわからないことがたくさんあるので、先輩や上司の方々のコミュニケーションを大事にし、1日でも早く役に立つ人材として貢献できるよう頑張ります。



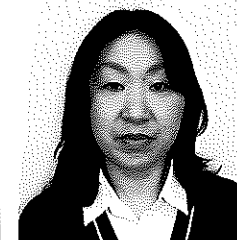
ささはら れおん
笹原 蓮音

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 最終学歴・専攻
山本学園高等学校 商業科
- C. 配属
事業本部 資源環境部
- D. 趣味
サッカー、バレーボール
- E. 年齢・生年月日
18歳 平成13年2月14日
- F. 社会人になっての抱負
入社したばかりで、まだまだわからない事が多いですが、1日でも早く仕事を覚え、力になれるよう精一杯頑張ります。



たかはし なおや
高橋 直也

- A. 出身地
山形県山形市
- B. 最終学歴・専攻
日本大学 生物資源科学部 生命化学科
- C. 配属
日本環境科学株式会社 管理営業部
- D. 趣味
PCいじり、カメラ
- E. 年齢・生年月日
24歳 平成6年11月24日
- F. 社会人になっての抱負
この度は日本地下水開発グループに入社させていただき、大変光栄に思っております。昨年8月より事業部として入社させていただき、2月より管理営業部の一員となりました。初めての営業でも右も左もわかりませんが、分析グループで学んだことを生かし、いち早く会社の要になれるように、日々努力していきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



すずき ちえみ
鈴木知恵美

- A. 出身地
山形県東村山郡中山町
- B. 最終学歴・専攻
日本大学山形高等学校 商業科
- C. 配属
日本環境科学株式会社 管理営業部
- D. 趣味
買い物
- E. 年齢・生年月日
42歳 昭和51年9月1日
- F. 社会人になっての抱負
24年前に入社し9年半お世話になりました。ご縁があり日本環境科学㈱で再スタートを切らせていただけることに感謝しております。亡き桂木公平会長がおっしゃっていた「目配り・気配り・心配りを常に念頭におき、迅速・正確に仕事に精進して参りたい」と思います。至らない点が多々あるかと思いますが、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



いっしょでがんばっています。

① 一九七四年五月一九日生まれ・B型・北海道札幌市出身

② 秋田大学 鉱山学部 資源・素材工学科卒業、一九九八年四月入社

③ 妻一人、娘二人(中二と小一) 家は皿洗い担当、掃除と洗濯はたまに担当。

④ 特技は特になし。食べることが好きなので、太らないようにたまに自転車に乗っています。旅行・読書も好きです。



⑤ a 子供が小さいので、ずっと一緒に遊んでもらえるよう健康でいたい

と考え、体力が落ちないように何かしたいと思っています。

b 「普通」な人はいないと思っています。人の多様性を理解し、できるだけ自分とは違う意見を楽しめる人になりたい

d 忘れやすいことが短所だと思っています

ですが、最近は長所かもと思っています。明らかな短所は短気・せっかちなところ

です。長所と言って良いのかはわかりませんが、仕事上では人に恵まれていると感じています。

「人それぞれ」

事業本部資源環境部 沖田 圭 右

c 思っています。

c ある仕事で、発注者側の担当者であった素敵な女性と二人で小樽の現場状況確認を行う出張がありました。小樽は私の母の実家があった場所で、幼少期は休み毎に行った土地であるため、都会でできた彼女を実家に連れて帰ったような気分になってしまい、必要以上にドキドキしたことが印象に残っています。

e 入社間もない頃、当時の秋田営業所の

所長から、出張に行ったなら、その場所の名所くらい見て、名物も食べた方が良くいと教えて頂きました。その時は興味なくとも、経験しておいて良かったと後で思えるかもしれないので是非実践してください。

第58期 太陽光発電状況(4ヶ所合計)

【発電所】

- 矢巾発電所(岩手) ●鶴岡発電所(庄内)
- 会津坂下発電所(福島) ●大田発電所(島根)

	総発電量(kWh)	計画発電量(kWh)
H30. 9月	46,486.8	44,901.5
10月	45,430.0	33,652.9
11月	31,461.8	18,303.7
12月	20,678.5	9,238.2
H31. 1月	22,292.0	15,542.0
2月	31,118.7	25,803.1
3月	52,452.9	46,478.3
4月	62,596.2	55,462.3
R1. 5月	83,706.4	62,296.1
6月		
7月		
8月		
合計	396,223.3	311,678.1

■質問内容

- ① 生年月日、出身地
- ② 出身校
- ③ 家族構成と家庭でのタイプ
- ④ 趣味または特技
- ⑤ a 今後の抱負
- b モットーや信念、または好きな言葉
- c 当社に入社してから、一番印象に残っている仕事とその理由
- d 長所と短所
- e 若手社員へのメッセージ

編集後記

令和の時代になりました。新元号の話題で盛り上がり、天皇の即位の礼をTVで観て、二〇〇年ぶりの譲位に対して日本国民であることに喜びを感じました。新しい時代も、平和で穏やかであることを願います。

(あ)